

廃炉・汚染水対策チーム会合 第5回事務局会議 議事概要

日時: 平成26年4月24日(木) 10:00~12:00

場所: 東京電力 本店 本館11階1101・1102会議室／福島第二免震棟1階会議室
福島第二免震棟3階会議室／福島第一免震棟2階総務会議室
／福島復興本社(福島分室)

出席者:

浅間教授(東大)、井上顧問(電中研)、田中教授(東大)、

吉田審議官、新川室長(資工庁)、

田中審議官代理(文科省)、得津室長(厚労省)、金城室長(規制庁)、

森山理事(JAEA)、金山理事代理(産総研)、鈴木専務理事代理(IRID)、

横山常務理事代理(電中研)、畠澤事業部長(東芝)、丸技監(日立)、

姉川主幹技師(三菱重工)、増田CDO、太田執行役員(東電) 他

議事:

1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があった。

Q. 汚染水の処理量は毎回示されているが、吸着塔、HIC等の廃棄物発生量についても示して頂きたい。(井上顧問)

A. HICの発生量は4/20時点278体で想定より多い状況。今後全体が見えるよう廃棄物の資料で整理する。(東電)

2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力及び資源エネルギー庁より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。

- ① 2号機 R P V底部温度計引き抜き
- ② 小規模凍土壁の凍結確認
- ③ 多核種除去設備の状況
- ④ 地下水バイパス状況報告
- ⑤ H4エリアタンク漏えい水の抑制対策
(土壌中ストロンチウム捕集の適用性検討状況)
- ⑥ 2、3号機海水配管トレンチ 建屋接続部止水工事進捗状況
- ⑦ 福島第一原子力発電所作業災害発生状況(H25実績、H26活動計画)
- ⑧ 3号機 SFP内大型ガレキ撤去作業の進捗状況
- ⑨ 共用プール建屋におけるエリアモニタの欠測
- ⑩ 3号機 R/B1階MSIV室内調査の実施
- ⑪ 固体廃棄物保管に関する中長期計画(案)
- ⑫ 福島第一廃炉推進カンパニーの設置

- ・ 主なやりとりは以下の通り

<進捗状況(概要版)>

(現場マネジメント)

- Q. 作業ミスが時々発生し、報道で大きく取り上げられている。東電は実際に現場状況をどの程度把握しているのか。現場の細かい状況まで把握して対策をとる必要がある。(浅間教授)
- A. 多くの作業を進めていく中で、東電のリソースにも限りがある。現場管理はある程度元請けにも見てもらう必要があり、その上で東電の管理レベルを上げていかなければならない。TBM-KYへの参加、リスクのある作業(重量物、火気作業)への立ち会い等を実施することに加え、エリア毎にどのような状況であるのか、幹部が責任者となり管理する取り組みを始めたところである。(東電)
- C. トラブルが多くなっている。個別の対応のみではなく、全体的に見て問題がどこにあるのか深掘りした上で対応することが重要である。(田中教授)

(ボーリング作業における遠隔化のニーズと国の技術公募)

- C. ボーリング作業では作業員の被ばくが課題であり、要員確保に苦労していると聞いている。遠隔操作が必要であればニーズを把握したい。このようなニーズは事務局会議等で「見える化」し、共有していくことが必要。(浅間教授)
- C. 「汚染水処理対策技術検証事業」の公募の中で、無人ボーリング技術検証事業についても公募を開始しており、国としてもしっかりと支援していく。(資工庁)
- C. 初期段階から日本の叡智を集めてやっているのか。そうしていなければぜひ日本の叡智を最大限に活用して進めて頂きたい。(井上顧問)
- C. プラントメーカーとしてもそうしていきたいと考えている。(畠澤事業部長)
- C. 国の補助事業として高性能多核種除去設備を設置することや、デブリ取り出し代替工法のRFIやRFPを実施することにより、国内外の技術を活用している。(新川室長)
- C. 国内外の技術を活用にあたり、RFIやRFPといった受け身の取り組みで十分なのか。むしろ積極的にいい技術を探す努力をしないとイケないのではないか。(浅間教授)
- C. HPでの募集だけでなく、積極的に探す取り組みも検討する。(新川室長)

(HTI止水)

- C. HTI建屋の止水について、止水効果を整理して報告頂きたい。(資工庁)
- C. 水移送を停止し止水の効果を確認しており、結果が整理でき次第報告する。(東電)

<地下水バイパス状況報告>

- Q. 揚水井 No.12 のトリチウム濃度が高い要因は何か。(田中教授)
- A. 地下水の流れの方向、流速等を勘案して検討しているが分かっていない。可能性としては、以前のROからの漏れい等の影響が考えられる。(東電)

<地下水及び海水の状況>

- Q. 観測孔 No.2-7 の全ベータ濃度が上昇している。港湾に出る前に地中で取り除くことを

検討するべきではないか。(井上顧問)

A. 方策について検討していく。(東電)

<共用プール建屋におけるエリアモニタの欠測>

Q. A系の電源を落としてなぜB系の電源が落ちるのか。(新川室長)

A. シーケンス上ではA系の電源を落としてもB系の電源が落ちることはない。現場を確認しているがまだ原因は分かっていない。(東電)

<使用済燃料取り出しスケジュール>

Q. 1号建屋カバーの解体がそろそろ開始されると思うが、ガレキ撤去時の飛散抑制について周辺住民が不安に感じている所もある。東電の対策だけで十分なのか。(新川室長)

A. ガレキ撤去時の飛散抑制対策については、更なる検討を進めていきたい。(東電)

<固体廃棄物保管に関する中長期計画(案)>

C. 新設の保管施設が必要な容量を約 16 万 m³としているが、地元に対し後出しとならないよう全体像と合わせて説明頂きたい。(井上顧問)

C. 保管施設の新設が必要な約 16 万 m³に加えて全体が見えるよう説明する。(東電)

<ヒューマンエラーの低減>

C. 先生方からも指摘があった通り、トラブルが減っていない。労働環境改善も重要だが、作業員が増えていく中でどうしたらヒューマンエラーを減らせるのか。一つ一つ対応することも大切だが、全体として専門家に関わってもらってチェックするような仕組みを検討頂いた方が良いと思う。(吉田審議官)

C. 1Fで起きているヒューマンエラーには、こんなところでなぜ間違うのかと思われることが多々ある。これまで発電所でやってきたような保全や運転管理が今の1Fの状況では実施できていない。社内にもヒューマンファクターを研究しているところがあり、全体を俯瞰してみる取り組みを始めたところである。いずれにせよ、もう少し落ち着いた環境で仕事ができるようにならないと効果が現れないと思われるので、時間を掛けてやっていきたい。(増田CDO)

C. 社内的にもいろいろやっていくが、廃炉・汚染水対策を世界的に先行しているハンフォード等がどう安全管理しているのかしっかりとベンチマークしていく。(東電)

C. しきりにプロジェクトマネジメントの説明をしているが、まだ部門間のコミュニケーションが不足している。共用プール建屋のエリアモニタの件は、運転部門は初めから知っていたと聞いている。ぜひ改善が見えるように取り組んで頂きたい。(金城室長)

3. その他

- ・ 次回は、5月29日(木)に開催する方向、確定次第別途連絡する。(新川室長)

以上